**目に見えなくても確かなもの 2017 12 03**

**マルコ 13: 24-37 牧師　安達均**

あるご家族の中で、お母様が洗礼を受けた。　寛容なご主人と、当時小学校二年生でとても頼もしい男の子が洗礼の場におられた。　洗礼式後に洗礼を目撃した男の子と話をする機会に恵まれた。

「お母さんが洗礼を受けるのを見てどう思った？」と質問すると、とても目をきらきらさせながら、「洗礼を受けてイエスさまを信じるということは、見えないものを信じるってことだよね。」と話し始めた。

私は小学校一年のときに小児洗礼を受けたが、祖父には「恐くないぞ」と言われ、父母やガッドペアレンツに囲まれ、そして司祭の手によってジャボンと洗礼盤の中に頭をつけられたのは覚えている。　しかし、小学校低学年で目にみえないものを信じるなんてことはまったく考えなかった。

それで私には、小学校二年生から聞こえてくる感想とは思えずに、「太郎くん、よく考えて、よくわかっているんだね。」と言って、太郎くんのことを誉めた。すると「僕には、目に見えないものを信じることができるかな。」との言葉も聞こえてきた。みなさんは、どう思われるだろうか。

本日の福音書の最後は「目を覚ましていなさい。」という言葉で終わっている。　イエスさまは、目をばっちり開いていれば、いずれイエスさまが昇天されたときと同じ姿で、またこの地上に戻っていらっしゃるから、イエスさまの再臨をきちんと目撃するように、目を覚ましているように、という文字通りの解釈もできるのかもしれない。

しかし、イエスの言われることはたとえ話が多く、本当にイエスさまが私たちにつたえたいことは、文字通りに解釈してよいとはいいがたい。　そもそも、ここでイエスが「目を覚ましているように」という話、いったいイエスはどういう意図をもって当時の弟子たちに、そして今日の私たちに語っているのだろうか？

当時のイエスとさらに弟子たちのおかれている状況は、ユダヤ教のリーダたちにイエス殺人計画が立てられてしまう時が迫っていた。さらにこのマルコ福音書が書かれた時代は、イエスがこのような教えを説いていた時代からさらに30年以上経過しており、キリスト教徒への迫害がどんどん激しくなっていく時代だった。まさにイエス自身が苦難を受けることに加えて、また弟子たちも苦難を受けると予言していたことが現実のものになってきた時代でもある。

しかし、イエスが十字架にかけられようが、さらにこのマルコが福音書を記述していた時代背景である、キリスト教徒への迫害やさらにユダヤ教の神殿崩壊の状況が来ようが、イエスが語られていた「天地は滅びるが私の言葉は決して滅びない。」と語られていたことをしっかり覚えていたい。

弟子たちにも見放され十字架に架けられて殺されて墓に葬られようが復活されたイエスがいた。　イエスは復活されただけではなく、イエスに従っていながらもイエスが十字架にかけられることがわかったとたんに逃げていってしまった弟子たちをも、赦される。イエスの死と復活によって、間違いをおかす人間たちを、徹底的に憐れみ、愛しつづけておられる神の愛の塊のような存在があきらかになった。

そして、キリスト教徒への激しい迫害の時代が来ようが、どのような形でこの世の命が終わってもイエスの愛とともに永遠の命を与えられるという希望にもつながっていった。神の慈しみは、この世でキリスト教徒であるがゆえに迫害を受け、ひどい殺され方・死に方をする人々に注がれ続けられた。

イエスが「わたしの言葉は決して滅びない」と語られたそのイエスの言葉とは、神からの永遠の愛・憐れみのことであり、その愛・憐れみがずっと注がれ続けるということに思えてくる。

そして、現代において、今日与えられているマルコ13章のイエスの語ったことは、いったい何を教えてくれているのだろうか？　10年前、神学校で学んでいたときに社会学者と牧師が協力して書いた本を読んだが、彼等によれば2015年ごろから20年間は、アメリカには、困ったリーダーたちが混乱をもたらすだろうと書かれていたことを思い出す。

みなさんは有名な某国家の大統領のことを思い浮かべているかもしれない。しかし、簡単に言ってしまえばもっと身近な組織においても、大きな混乱もなく社会を生きてきた人々が大半を担う時代になってきて社会の分断や混乱があらゆるところで起こってくるのだそうだ。

今日の聖書箇所は、よく言われる終末だとか、イエスの再臨のことでもある。再臨や終末の話はよくわからないと思う方は、だれにでも必ずやってくる自分の死を意識すると良いと思う。今日の聖書箇所は、世の混乱・死に向かってどう生きるかについて、確かな指針と大きな希望を与えている。

イエスは「天地は滅びるが、わたしの言葉は決して滅びない」と語り、「目を覚ましているように。」と喚起する。。「目を覚ましている」とは、私たちの目には見えないが、確かなイエスの言葉・愛が常に与えられており、その愛に敏感に反応して生きること、と教えられているように思えてくる。

どのような時がきても、洗礼を受けたキリスト者は、主の御言葉を聞き、十字架にかかったイエスの体と流された血を覚え、裂かれたパンとぶどう酒ををいただくことをくりかえす生活を送る。その中でイエスからいただいている憐れみ・愛に敏感に反応して、その愛を分かち合い、さまざまな形で主のために、そしてキリストの愛がみちあふれる社会形成のために歩む。　アーメン